

# Topological invariants of 3-manifolds

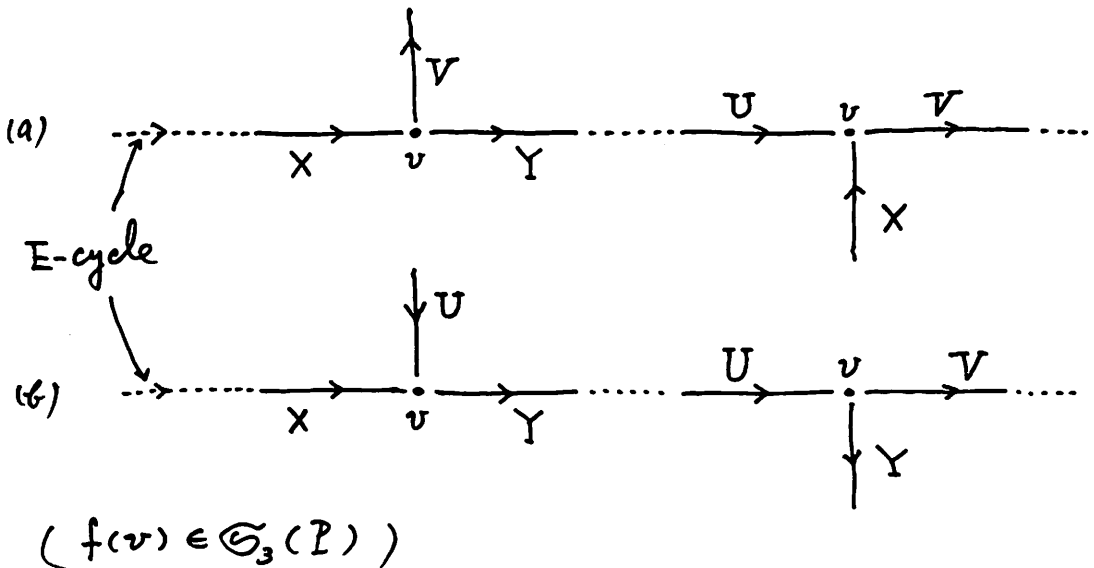
石井 - 平 (慶応大.理工)

## §1. E-data

$B^3$  を 3-ball,  $(G, f)$  を  $\partial B^3$  上の DS-diagram with E-cycle として  $B^3/f = M^3$  は orientable closed 3-mfd となるものとして考える.

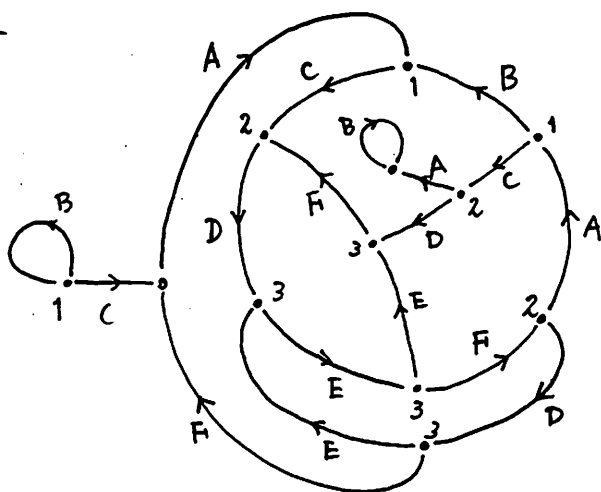
以下では  $B^3$  の orientation は 1 つ fix されているものとし、すべての E-cycle 毎 DS-diagram に対し、その E-cycle は一定の向きに向き付けられているものとする。すなわち、DS-diagram を oriented manifold と考える。

このとき、 $\mathcal{G}_3(P)$  ( $P = \partial B^3/f$  : fake surface) は、次の 2 種類に分類される。

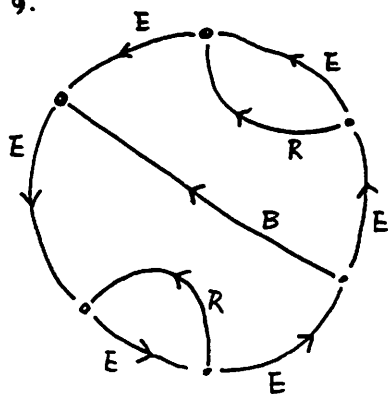


$f(v) \in \mathcal{S}_3(P)$  が (a) 図の type のとき.  $f(v)$  (or  $v$ ) を R-type, (b) 図の type のとき. B-type と呼ぶことにする. これら 2つの type の vertices が E-cycle 上どのように配置されているかを記述するものが E-data (以前は singularity-data と呼んでいたもの) である. この E-data を後々のために. 次のように グラフで表示する.

例



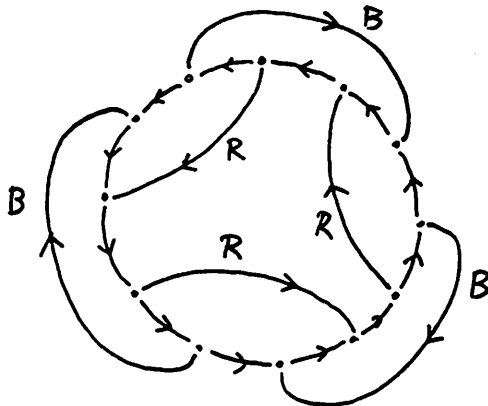
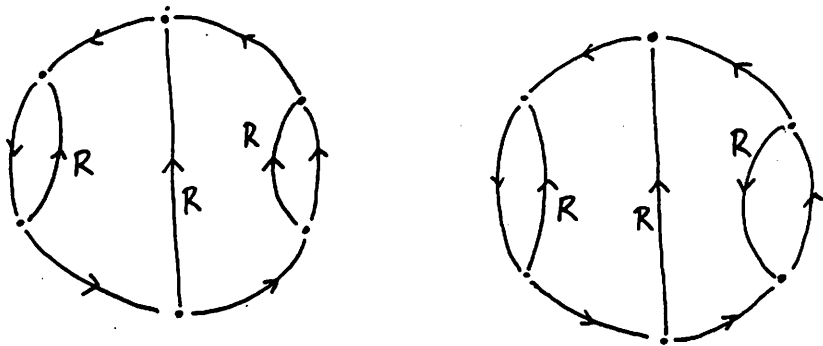
この DS-diagram with E-cycle 上 vertices 1 と 3 は R-type で 2 は B-type である. このとき E-data を 次の (抽象的) グラフで表す.



即ち、このグラフ (oriented, 3-colored) は次の様に作られている。

- (i) vertices set は DS-diagram の E-cycle 上にある vertices.
- (ii) E-cycle 上隣り合う vertices は E-色の edge  $\xrightarrow{E}$  で結ぶ。向きは E-cycle の向き。
- (iii) identification map  $f$  により、互いに identify される vertices をその type に応じて R-色の edge  $\xrightarrow{R}$  又は B-色の edge  $\xrightarrow{B}$  で結ぶ。但しこれら R-色, B-色の edges の向きは、E-cycle の左側に edge が出ている方から、右側に edge が出ている方へ向かう。

練習問題 : 次の E-data の表わす manifold は?



(色指定のない edge は E-色)

注意

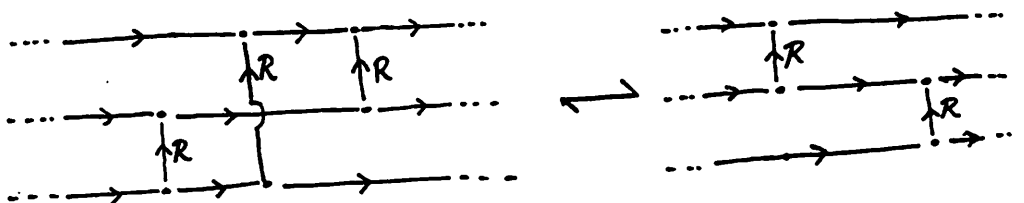
- 1) すべての closed orientable 3-mfd はある E-data によって表示される。
- 2) すべての E-data が closed 3-mfd に対応するわけではない。  
しかし、本巻の池田-河野両氏の報告を見れば、各 E-data には、ある class の compact 3-mfd の一つが対応していることがわかる。

## §.2. moves. of E-data

この節では manifold を不変にする E-data の変形 (move と呼ぶ) を考える。

Def : (move  $\mathcal{R}_2$ )

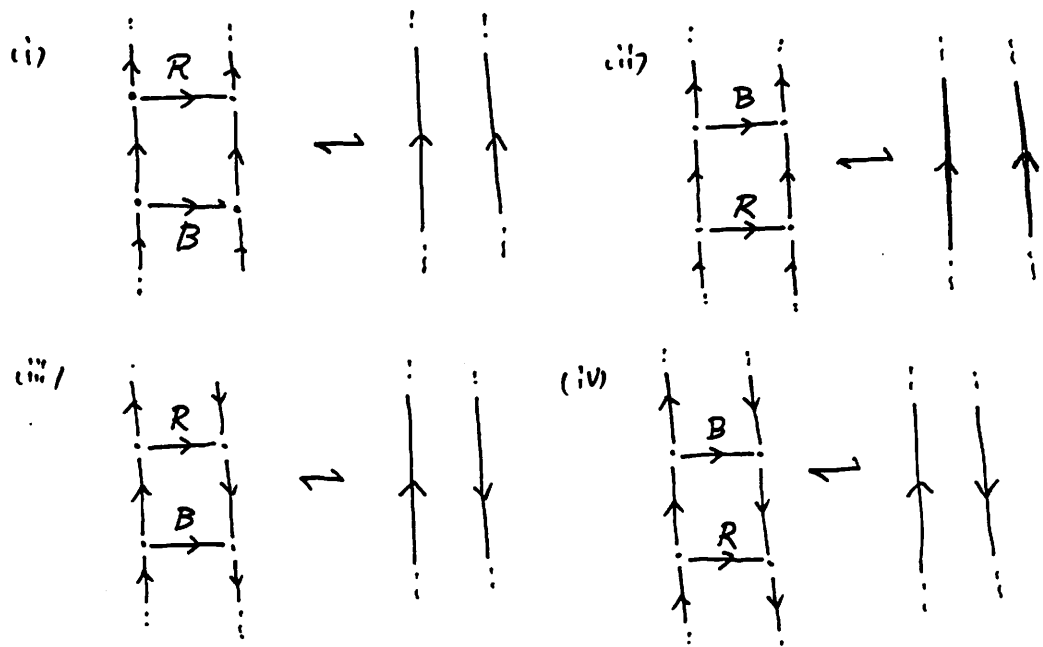
次の左の E-data (の一部) を右の E-data に変える操作を  $\mathcal{R}_2$ , 逆操作を  $\mathcal{R}_2^{-1}$  で表わす



(色指定のない edges は E-色, 以下でも同様に E-色は書かないこととする。)

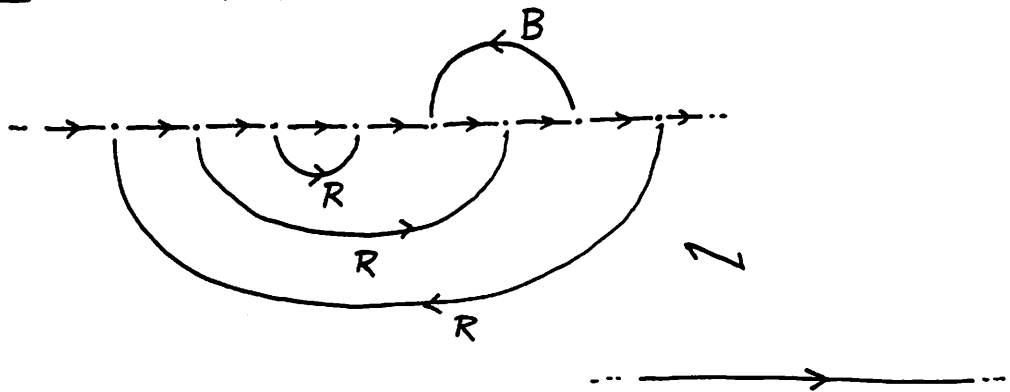
Def (move  $\mathcal{R}_1$ )

同様に次の4つを総称して  $\mathcal{R}_1$ , その逆を  $\mathcal{R}_1^{-1}$  で表わす.



\*  $\mathcal{R}_1^{\pm 1}, \mathcal{R}_2^{\pm 1}$  を regular moves と呼ぶ.

Def (move  $S$ )



\*  $S^{\pm 1}$  を surgery move と呼ぶ.

$\Delta, \Delta' \in 2$  の E-data で 互いに closed 3-mfd を表わしているものとす。  $\Delta$  と  $\Delta'$  の間の  $\rightsquigarrow$  の同値関係  $\sim$  を以下に定める。

Def. 1. (equivalence)

$$\Delta \sim \Delta'$$

$\Leftrightarrow \exists$  a sequence of E-data  $\Delta = \Delta_1, \Delta_2, \dots, \Delta_n = \Delta'$ ,

s.t.  $\Delta_{k+1}$  は  $\Delta_k$  から  $\mathcal{R}_j^{\pm 1}, \mathcal{S}^{\pm 1}$  の一つだけか  $\in 1$  回  
 $\rightsquigarrow$  して得られる。 ( $k=1, \dots, n-1$ )

Def. 2. (strongly equivalent)

$$\Delta \underset{\Delta}{\sim} \Delta'$$

$\Leftrightarrow \Delta \sim \Delta'$  で  $\rightsquigarrow$  途中の各  $\Delta_k$  が closed 3-mfd  
 を表す。

Def. 3. (regular equivalence)

$$\Delta \underset{r}{\sim} \Delta'$$

$\Leftrightarrow \exists$  a sequence of E-data  $\Delta = \Delta_1, \dots, \Delta_n = \Delta'$ ,

s.t.  $\Delta_{k+1} = \mathcal{R}_j^{\pm 1}(\Delta_k)$  ( $j=1$  or  $2, k=1, \dots, n-1$ )

Def. 4. (strongly regular equivalent)

$$\Delta \underset{\text{s.r.}}{\sim} \Delta'$$

$\Leftrightarrow \Delta \underset{r}{\sim} \Delta'$  且つ途中の各  $\Delta_k$  が closed 3-mfd を表す.

27.  $\Delta$  を E-data で closed 3-mfd. を表すとす (この mfd を  $M(\Delta)$  で表す). すると §.1. に述べた約束によって  $B^3$  の orientation から  $M(\Delta)$  に orientation が定まっている.  $M(\Delta)$  と  $M(\Delta')$  との間に orientation preserving homeo. があるとき  $M(\Delta) \cong M(\Delta')$  と書くことにする.

また, closed 3-mfd  $M$  上の non-singular vector fields 全体を  $\mathcal{X}_0(M)$  で表わすと, E-data  $\Delta$  は  $\mathcal{X}_0(M(\Delta))$  の connected component を 1 つ定めることが知られている. この component を  $[\Delta]$  と書くことにする. (cf. I. Ishii, Combinatorial construction ..., Kobe J. Math. 3 ('86), 201-208)

次の 3 つの定理が成り立つ.

Th. 1.

$$M(\Delta) \cong M(\Delta') \Leftrightarrow \Delta \underset{\Delta}{\sim} \Delta'$$

Th. 2.

$$M(\Delta) \cong M(\Delta'), [\Delta] = [\Delta'] \Leftrightarrow \Delta \underset{\text{s.r.}}{\sim} \Delta'$$

$$\text{Th. 3. } \Delta \sim \Delta' \Rightarrow \pi_1(M(\Delta)) \cong \pi_1(M(\Delta'))$$

### 問題 (かなり難しそうな open problem)

1.  $\Delta \sim \Delta'$  且  $\Delta \not\sim \Delta'$  なる  $\Delta, \Delta'$  は存在するか?
2. 上のような  $\Delta, \Delta'$  が存在したとすると  $M(\Delta)$  と  $M(\Delta')$  の関係は? (上の Th.3. から  $\pi_1(M(\Delta)) \cong \pi_1(M(\Delta'))$ )

上の Th.2. は moves  $\mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2$  が E-data に対応する non-singular flow 及び local section の isotopic な変形 そのものであることを見れば証明できる。

さらに. non-singular flow の異なる component に移る変形が move  $S$  によって記述されることを見て. Th.1. が証明される。

Th.3. は E-data から読む  $\pi_1$  の表示が  $\mathcal{R}_j, S$  で Tietz 変換によって移り合うことから示される。

### §.3. state sum invariant I.

以下では. E-data  $\Delta$  に対して定義され. moves  $\mathcal{R}_j, S$  によって不変な量をいくつか定めよう。このような量が定まれば. それは. Th.1. によって  $M(\Delta)$  の位相不変量となる。

#### Notation.

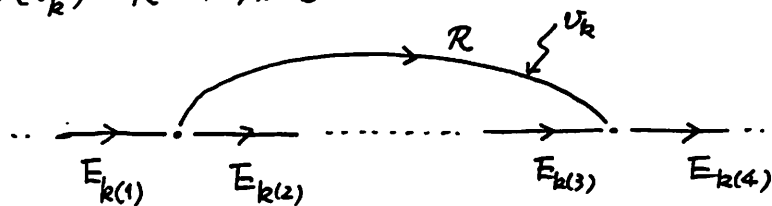
- 1)  $\Delta$ : an E-data (概念的な3色有向グラフと考える)
- 2)  $E_1, E_2, \dots, E_{2n}$ :  $\Delta$  の E-色 edges
- 3)  $v_1, v_2, \dots, v_n$ :  $\Delta$  の R-色又は B-色の edges



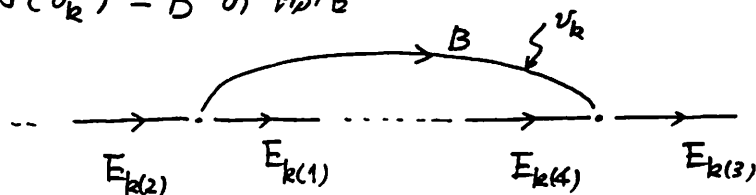
4)  $\sigma(v_k) = R$  or  $B$  ( $v_k$  の色)

5) 各  $v_k$  に対し.  $E_{k(1)}, E_{k(2)}, E_{k(3)}, E_{k(4)} \in \{E_1, \dots, E_{2\ell}\}$   
を次の規則で定める.

ii)  $\sigma(v_k) = R$  の場合



iii)  $\sigma(v_k) = B$  の場合



6)  $J = \{1, 2, \dots, n\}$  (有限集合: set of colors という)

7)  $\varphi: \{E_1, \dots, E_{2\ell}\} \rightarrow J$  : a coloring of  
 $\{E_1, \dots, E_{2\ell}\}$

8)  $\left\{ \begin{matrix} i & j \\ k & l \end{matrix} \right\}_R, \left\{ \begin{matrix} i & j \\ k & l \end{matrix} \right\}_B \in \mathbb{C}, (i, j, k, l \in J)$

( $\left\{ \begin{matrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{matrix} \right\}_R$  &  $\left\{ \begin{matrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{matrix} \right\}_B$  は  $J \times J \times J \times J$  上の  
 $\mathbb{C}$ -valued function, 二つは後で定める.)

$\{\vdots\}_R, \{\vdots\}_B$  が与えられたとき. E-data  $\Delta$  に

対し.

$$\Phi(\Delta) = \sum_{\mathcal{G}} \left( \prod_{k=1}^{\nu} \left\{ \begin{array}{l} \mathcal{G}(E_{k(1)}), \mathcal{G}(E_{k(2)}) \\ \mathcal{G}(E_{k(3)}), \mathcal{G}(E_{k(4)}) \end{array} \right\}_{\sigma(v_k)} \right)$$

と定める.  $\Phi$  はすべての coloring  $\mathcal{G}: \{E_1, \dots, E_{2\nu}\} \rightarrow J$  に関して取る.

$\Phi$  の  $\Phi(\Delta)$  を moves  $\mathcal{R}_j, S$  で不変にするように.

$\{\vdots\}_R, \{\vdots\}_B$  を定めるのが目標である.

Prop. 1.  $\{\vdots\}_R$  が次の(\*)を満たせば  $\Phi(\Delta)$  は

move  $\mathcal{R}_2$  で不変である.

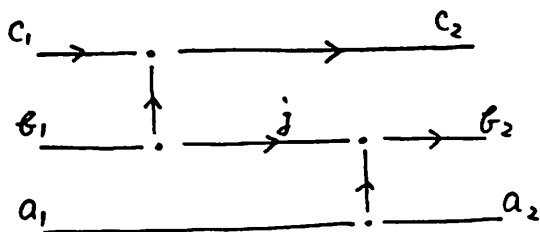
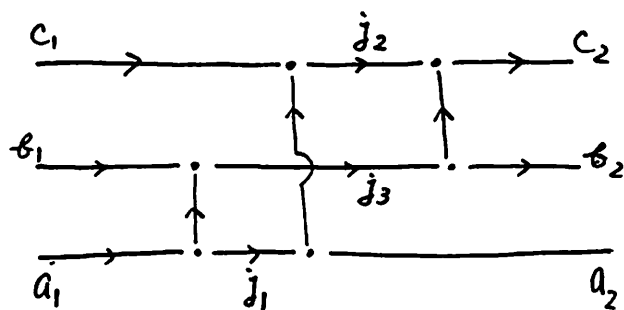
$$(*) \quad \sum_{j_1, j_2, j_3 \in J} \left\{ \begin{array}{l} j_1, j_2 \\ a_2, c_1 \end{array} \right\}_R \left\{ \begin{array}{l} j_3, c_2 \\ b_2, j_2 \end{array} \right\}_R \left\{ \begin{array}{l} a_1, j_3 \\ j_1, b_1 \end{array} \right\}_R$$

$$= \sum_{j \in J} \left\{ \begin{array}{l} b_1, c_2 \\ j, c_1 \end{array} \right\}_R \left\{ \begin{array}{l} a_1, b_2 \\ a_2, j \end{array} \right\}_R$$

for  $\forall a_j, b_j, c_j \in J$

( $j=1, 2$ )

これは  $\text{move } \mathcal{R}_2$  の定義の図を



と  $\{E_1, \dots, E_{2n}\}$  の  $J$  による coloring が定まっているものとして、  $\varphi$  がめで  
見ればすぐにわかる。

この Prop. によって  $\text{move } \mathcal{R}_2$  で不変なように  
 $\{::\}_R$  を定めれば、 $\{::\}_B$  は  $\text{move } \mathcal{R}_1$  で不変という  
条件から自然に定まる (これは以下の例で説明する.)

このように定まった  $\{::\}_R, \{::\}_B$  が  $\text{move } S$   
で不変であるか否かを調べるのはよい。Th. 2. を見れば  
例え  $\text{move } S$  では不変でなくとも落胆することは  
ない。

$\begin{Bmatrix} i & j \\ k & l \end{Bmatrix}_R$  を  $\#J=2$  or  $3$  の場合に. 関係式 (\*) を

$$\begin{Bmatrix} i & j \\ k & l \end{Bmatrix}_R = 0 \quad \text{if } i > k \text{ or } j < l$$

という条件のもとに解いてみた。

[I]  $J = \{1, 2\}$  の場合

$\begin{Bmatrix} i & j \\ k & l \end{Bmatrix}_R$  を次のように行列表示する。

$(k, l) \backslash (i, j)$	(1,1)	(1,2)	(2,1)	(2,2)
(1,1)	$u_1$	$q_1$	$p_1$	$y$
(1,2)	0	$v_1$	0	$p_2$
(2,1)	0	0	$v_2$	$q_2$
(2,2)	0	0	0	$u_2$

i.e.  $u_1 = \begin{Bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 1 \end{Bmatrix}_R$ ,  $q_1 = \begin{Bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{Bmatrix}_R$ , ... etc.

この matrix を  $K$  とおく。  $K$  が (\*) を満たすのは次の4つの場合である。

$$(1) \quad u_1 = -1, \quad v_1 = v_2 = u_2 = y = 1, \quad p_1 q_1 = -2 \\ p_2 = q_2 = 0$$

$$(2) \quad u_1 = v_2 = u_2 = 1, \quad v_1 = y = -1, \quad p_2 g_1 = 2 \\ p_1 = g_2 = 0$$

$$(3) \quad u_1 = v_1 = u_2 = 1, \quad v_2 = y = -1, \quad p_1 g_2 = 2 \\ p_2 = g_1 = 0$$

$$(4) \quad u_1 = v_1 = v_2 = y = 1, \quad u_2 = -1, \quad p_2 g_2 = -2 \\ p_1 = g_1 = 0$$

次に  $\mathbb{C}$  の  $K$  に対し  $\{ \cdot \cdot \cdot \}_B$  を  $\text{move } \mathcal{R}_2$  で  $\Phi(\Delta)$

を不変にするように定めることを考える。

$$K \text{ を } 2 \times 2 \text{ matrixes の blocks として } K = \begin{pmatrix} K_{11} & K_{12} \\ K_{21} & K_{22} \end{pmatrix}$$

と表示し  $\{ \cdot \cdot \cdot \}_{k \ell}$  の同様の行列表示, およびその

blocks を  $L = \begin{pmatrix} L_{11} & L_{12} \\ L_{21} & L_{22} \end{pmatrix}$  で表わす。このとき。

Prop. 2.

(i)  $L^T = K^{-1}$  ならば  $\Phi(\Delta)$  は  $\mathcal{R}_1$ -(iii), (iv) で不変。

(ii)  $\hat{L}^T = \hat{K}^{-1}$  ならば  $\Phi(\Delta)$  は  $\mathcal{R}_1$ -(ii), (iii) で不変。

但し  $\hat{L} \equiv \begin{pmatrix} L_{11} & L_{21} \\ L_{12} & L_{22} \end{pmatrix}$ ,  $\hat{K} \equiv \begin{pmatrix} K_{11} & K_{21} \\ K_{12} & K_{22} \end{pmatrix}$  として,

$L^T, \hat{L}^T$  は転置行列を表わす。

この Prop. も move  $\mathcal{R}_1$  を 1 にすればすぐにわかる.

従って、 $\{\dots\}_{\mathcal{R}}$  が定まるといれれば、 $\{\dots\}_{\mathcal{B}}$  は.

$L^T = K^{-1}$  によって定め、 $\hat{L}^T = \hat{K}^{-1}$  が満たされていれれば.

$\Phi(\Delta)$  は moves  $\mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2$  で不変となる.

上に述べた (1) ~ (4) のどの場合にも、 $L^T = K^{-1}$  とすれば  $\hat{L}^T = \hat{K}^{-1}$  も成り立っている. 更にこの場合には、move  $S$  でも不変になることが示される. 即ち.

$\Phi(\Delta)$  は  $M(\Delta)$  の位相不変量を与える. ここで  $M = M(\Delta)$

に対し、 $\phi(M) = \Phi(\Delta)$  と  $\phi$  を定める. 解 (1) によって  $\phi$  の値をいくつか計算してみると.

$$\phi(S^3) = 1$$

$$\phi(L(p, 1)) = \begin{cases} 1 & \text{if } p \text{ is odd} \\ 2 & \text{if } p \text{ is even} \end{cases}$$

等となる. この不変量の幾何的意味は今のところ不明.

③  $\{\dots\}_{\mathcal{R}}$  から  $\{\dots\}_{\mathcal{B}}$  を決定する方法は、 $\#J > 2$  のときも同様である.

[II]  $J = \{1, 2, 3\}$  の場合

同様に matrices  $K, L$  を求める。その解の  $\gamma \rightarrow \epsilon$  として

$$K = \begin{array}{c|ccc|ccc|ccc} & (1.1) & (1.2) & (1.3) & (2.1) & (2.2) & (2.3) & (3.1) & (3.2) & (3.3) & \\ \hline K = & \omega & -\delta_1 \epsilon & \delta_1 \epsilon^2 & -\delta_2 a & 2\omega^2 & -\omega^2 \epsilon & \delta_2 a^2 & -\omega^2 a & 1 & (1.1) \\ & & \omega^2 & -\omega^2 \epsilon & 0 & \delta_2 a & \delta_2 & 0 & 0 & 0 & (1.2) \\ & & & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & (1.3) \\ \hline & & & & & & & & & & \\ \hline L = & (1.1) & \omega^2 & & \omega^2 & \delta_1 \epsilon & 0 & -\omega^2 a & \delta_1 & 0 & (2.1) \\ & (1.2) & \delta_1 \epsilon & \omega & & \omega & \epsilon & 0 & a & 1 & (2.2) \\ & (1.3) & 0 & \epsilon & 1 & & 1 & 0 & 0 & 0 & (2.3) \\ \hline & (2.1) & \delta_2 a & 0 & 0 & \omega & & 1 & 0 & 0 & (3.1) \\ & (2.2) & -2\omega^2 & -\delta_2 a & 0 & -\delta_1 \epsilon & \omega^2 & & 1 & 0 & (3.2) \\ & (2.3) & \omega^2 \epsilon & -\delta_2 & 0 & \delta_1 \epsilon^2 & -\omega^2 \epsilon & 1 & & 1 & (3.3) \\ \hline & (3.1) & 0 & 0 & 0 & a & 0 & 0 & 1 & & \\ & (3.2) & \omega^2 a & \delta_2 a^2 & 0 & -\delta_1 & -\omega^2 a & 0 & 0 & 1 & \\ & (3.3) & \omega^2 & \delta_2 a & 0 & \delta_1 \epsilon & -\omega^2 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ \hline & (1.1) & (1.2) & (1.3) & (2.1) & (2.2) & (2.3) & (3.1) & (3.2) & (3.3) & \end{array}$$

$$\left( \omega = \exp\left(\frac{2\pi}{3}\sqrt{-1}\right), \delta_1 \delta_2 = -1, a \epsilon = \omega - 1 \right)$$

を得る。

この行列  $K$  は (\*) を満たし,  $L^T = K^{-1}$ ,  $\hat{L}^T = \hat{K}^{-1}$  が成り立っている。即ちこれから定めた  $\{::\}_R$  及び

$\{::\}_B$  で  $\text{重}(\Delta)$  を定義すれば、これは moves  $\mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2$

で不変な量となる。これが move  $S$  で不変であるか否かは、まだ確かめていないが、種々の状況証拠からは move  $S$  でも不変のようである（先に述べたように。例えば move  $S$  では不変でなくとも  $[\Delta]$  の不変量にはなる。）

\* これが move  $S$  でも不変になっていれば、この不変量は、 $L(7,1)$  と  $L(7,2)$  を区別しそうである。

#### §.4. state sum invariant .II.

前節では spine の 1-skelton の coloring から導かれる不変量を考えたが、この節では 2-skelton の coloring を考えてみる。これは、最近 Turaev-Viro によって定義された state sum invariant と同種の物と思われる。彼等は、Matveev の spine の move に関する「定理」を基礎にしているので証明の細部には問題があるのかも知れないが、定義されている不変量は、 $\beta$ - $\gamma$  symbol なるものを使用して意味あり気である。

他人のことはこれぐらいにして、とにかく定義してみよう。

今度は DS-diagram の 2-cell が関係するので  $S^1 (= E\text{-cycle})$  だけでなく  $\mathbb{R}B^3$  まで見る必要がある。



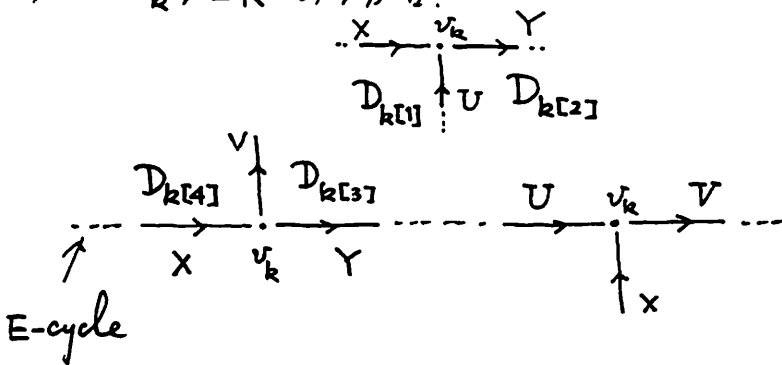
### Notation

1)  $v_1, v_2, \dots, v_{2n}$  : 前節と同し,  $\Sigma$  は spine  $P = \partial B^3 / \sim$  の 3-rd singularities  $z^i$  もある.

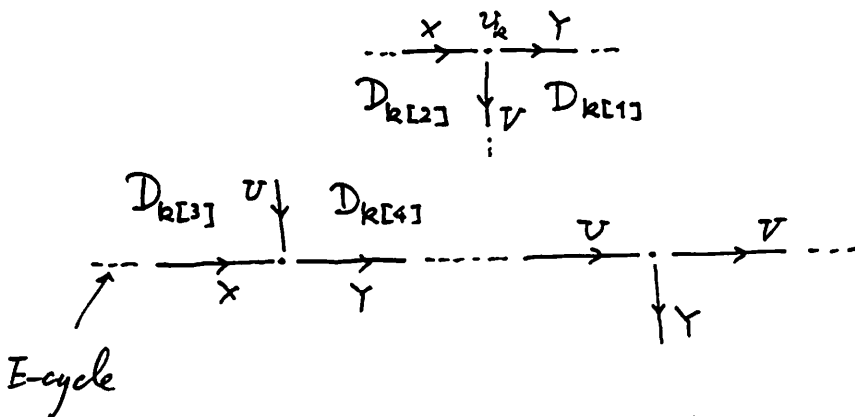
2)  $D_1, D_2, \dots, D_{2n+1}$  :  $P - \Sigma_2(P)$  の components

3)  $\forall k$   $1 \leq k \leq n$   $D_{k[1]}, D_{k[2]}, D_{k[3]}, D_{k[4]} \in \{D_1, \dots, D_{2n+1}\}$  を次の規則で定める.

ii)  $\sigma(v_k) = R$  の場合



iii)  $\sigma(v_k) = B$  の場合



4)  $J = \{1, 2, \dots, n\}$  : set of colors

5)  $\psi : \{D_1, \dots, D_{v+1}\} \rightarrow J$  : a coloring of  $\{D_1, \dots, D_{v+1}\}$

6)  $\begin{bmatrix} i & j \\ k & l \end{bmatrix}_R, \begin{bmatrix} i & j \\ k & l \end{bmatrix}_B \in \mathbb{C}, (i, j, k, l \in J)$

7)  $w_j \in \mathbb{C} (j \in J)$

$\Delta \in E\text{-data}$  の DS-diagram を実現するものとする。このとき、 $\bar{\Psi}(\Delta) \in$

$$\bar{\Psi}(\Delta) = \frac{1}{\#J} \sum_{\psi} \prod_{\ell=1}^{v+1} w_{\psi(D_{\ell})} \prod_{k=1}^v \left[ \begin{array}{c} \psi(D_{k[2]}), \psi(D_{k[4]}) \\ \psi(D_{k[1]}), \psi(D_{k[3]}) \end{array} \right]_{\sigma(v_k)}$$

と定め、これが  $M(\Delta)$  の位相不変量と見るように  $\left[ \begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \end{array} \right]_{\sigma(v_k)}$

を定めることを考える。

### 解の例

$$J = \{1, 2, \dots, n\}$$

$$w_j = 1 \quad (j=1, \dots, n)$$

$$\tau : J \times J \rightarrow J : \tau(i, j) \equiv i+j-1 \pmod{n}$$

と  $\tau$  を与える。

$$\begin{bmatrix} i & j \\ k & l \end{bmatrix}_R = \begin{bmatrix} i & j \\ k & l \end{bmatrix}_B = \begin{cases} 1 & \text{if } \begin{pmatrix} \exists h \in J \\ \ell = \tau(i, h) \\ j = \tau(k, h) \end{pmatrix} \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

と  $[\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}]_R, [\begin{smallmatrix} \cdot & \cdot \\ \cdot & \cdot \end{smallmatrix}]_B$  を定めれば、 $\Psi(\Delta)$  は moves  $\mathcal{R}_1, \mathcal{R}_2, S$  で不変となり  $\Psi(\Delta)$  は  $M(\Delta)$  の位相不変量を与え、これは  $\mathbb{Z}_n$ -homology の invariant のようにある。

話が前後してしまふので、move  $\mathcal{R}_2$  で不変な条件は次のとおり。

$$w_j \sum_{j \in J} \begin{bmatrix} j & f \\ e & g \end{bmatrix}_R \begin{bmatrix} c & j \\ b & e \end{bmatrix}_R \begin{bmatrix} b & d \\ a & j \end{bmatrix}_R$$

$$= \begin{bmatrix} c & d \\ a & e \end{bmatrix}_R \begin{bmatrix} c & g \\ b & f \end{bmatrix}_R$$